



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

Summer

平成22年

2010年 7月

会報 第51号



定期総会の一コマ

## 目次

巻頭 星の家のこどもたち

研修会報告

春夏秋冬「星の家」 N0.15

事務局報告

平成22年度定期総会報告ほか



平成22年度定期総会終了後に研修会を開催しました。星の家の全スタッフが「星の家とつながる子どもたち」をテーマに語っておりますのでご一読ください。

## 星の家のこどもたち

理事 藤岡 悦子

「星先生のご長男が現役で国立宇都宮大学に合格しました。藤岡さんに知らせてほしいというご本人のご希望でお知らせします。」という連絡をいただいたのは今年の三月のことでした。

私が「星の家」にかかわり始めたのは十年ほど前のことになります。知人を通して自立援助ホーム「星の家」の活動を知ることとなり、ちょうど食事のボランティアを必要としていることを知り、お食事のお手伝いをさせていただくことになりました。

当時ご長男は小学生で弟が二人おり、ご両親の献身的な活動の中でけなげに頑張っている姿が忘れられません。

自立援助ホームを利用する子供たちにはいろいろな家庭の事情があります。その中で最も多いのはドメスティックバイオレンス(DV)の中で育ち、家庭を失い、犯罪に走らざるを得なくなり、また戻る家もなくなってしまった子供たちです。そのような子供たちを温かく受け入れ、家族ぐるみで自立を支援していくことは言葉に言いあらわせないほどの大変な事業であり、ご夫妻ばかりではなく、それを受け入れざるを得ない子供たちの負担がいかばかりか想像に難くありません。

DVは一般的には夫から妻への暴力が大きく取り上げられていますが、その子供たちが受ける被害も

注目されております。

その子供たちを支援するには単に経済的な支援では不十分で、精神的支援と教育が必要です。最も重要な教育は正常の父親の姿を日常生活の中で示してあげることです。そして正常の夫婦の関係と親子の関係を示してあげることです。そこで重要な役割を果たすのが、自立援助ホームの家庭の「こどもたち」です。

こどもは親を選べません。自立援助ホームを利用する子供たちと同様、星家の三人のこどもたちも生まれながらにしてこのような環境の中で生活せざるを得ない状況におかれまして。幼いころから、自分たちの両親が自分たちだけではなく、見ず知らずの他の子供たちの両親でもあるという環境は非常に苛酷なものであったはずですが、星先生ご夫妻はその中でご自分のお子様方も立派にお育てになってくれました。それでも、お子様方にとってはご自分たちへ来るはずの愛情が他の子供へ注がれることでさみしい思いをされたことも少なくないと思います。

私のできることはただ、わずかばかりでもその愛情を補充して差し上げることができればということでした。

食べること、これが最も直接的な愛情を表現し、受け入れられるものではないかと思い、一生懸命

供たちの好きなものを考えながら、食事をお届けしたものです。名目は自立援助ホームにあずかっている子供たちへの食事協力でしたが、実際には私の気持ちの中では、三人のお子様方へも向けたものでした。

お正月には恒例のおせち料理をお届けすると、自立援助ホームのOBたちも戻ってきて楽しんでいただけるとのことです。

これが冒頭のご長男からのメッセージとして私に届けられたのだと思います。彼はしっかりと私の

愛情も受け止めてくれており、ご両親のお仕事も十分に理解し、その精神的なストレスも乗り越えてきたのだと思い、それが私への一番大きな贈り物であると思いました。

星先生ご夫妻の深い愛情と献身的なご努力でこの自立援助ホームがわが国屈指の模範的組織と認められるようになりましたのは、ひとえに「星家のこどもたち」のおかげであると言っても過言ではないと思っています。彼らの幸せを心から願っております。

## 研修会報告（平成22年度上期）

### 報告会 テーマ：「星の家とつながる子どもたち」

5月22日の定期総会終了後に、子どもたちの自立を見守るネットワークづくりの一環として、報告会形式による研修会を開催しましたのでその要旨を報告します。

テーマ「星の家とつながる子どもたち」

出席者：自立援助ホーム「星の家」スタッフ

星の家ホーム長 星俊彦

星美帆

吉井祐美子

曾根俊彦（非常勤）

司会の福田雅章本会理事長から、この研修会は会員の方々などに星の家のスタッフの生の声を聞いて



研修会の一コマ

いただきたいとの思いで開催した。ここに居並ぶ星の家全スタッフの生の声をご清聴いただいた上で、忌憚のないご意見ご質問をいただきたい。

その後、進行は星ホーム長のリードで進められた。

星ホーム長挨拶

自立援助ホームの重要性が社会的に認められてきたことにより、公的な資金の支出が少しずつ増えて

きていたが、昨年度の制度改正では、ようやく他の児童福祉施設に近いものとなった。国の方針にも後押しされて、今、自立援助ホームの数は爆発的に増加しつつある。もちろんそのことは悪いことではない。しかし、往々にしてこのようなときには理念的な部分がゆらぎ、曖昧になってしまうことが起こりがちである。私たちは常に「子どもにとってどうか」と言う視点で物事を考え、加わってきた仲間たちとともに、新しい時代の自立援助ホームのあり方を確立していきたい。

最近、特に感じることは「大人になることを強いるのは無理だ!」という子が多いということだ。15、16歳の子どもに「自立をしろ!」というのは間違っている。そんな気がしてくる。児童養護施設の人たちはどう考えているのだろう。児童相談所や県の担当課も交えて、話し合いをしていく必要があると思っている。

そして星ホーム長から各スタッフへの問い。

【最近どう思いますか?】

星美帆スタッフ

「星の家」を支えてくださる皆様にお会いするのがとても嬉しく、お礼申し上げます。

我が子がまだ幼い頃、我が子を連れて出かけると、入居者の子どもたちはどう思っているのだろうかとか、可哀想に思ったりしてこれで良いのかと自分に問いかけたりしたことを思い出す。

今我が子が大きくなり、退所者と会う時間が持て

るようになってきた。私が変わってきたと思うのは、今5人の女子入居者がいるが、今までの自分はいかに感情的になっていたが、自分が気づかぬうちに自分が変わってきたのだと感じている。

吉井スタッフ

「星の家」に来てからもう少しで6年目に入る。私は好き嫌いがはっきりしているタイプで、皆との会話の中でも感じてしまうことがある。昨年は15歳の女の子たちが「私たちは自分たちだけでやっていけるぜ」と子どもVS大人の構図になってしまった。今年はまず話しをよく聞くことを心がけた結果、子どもの間に大人が入っていきける雰囲気になってきている。

曾根非常勤スタッフ

子育ては大変なエネルギーを必要とする。30年ほど児童養護施設で勤めたが、エネルギーの限界を感じて退職した。

今の「星の家」は施設から直ぐに入居してきた15,16歳の子が多く、自立援助ホームも児童養護施設化していて、入居者と接するのにエネルギーが必要である。

施設で育った子の多くは、大人に対する不信感が強く、子ども達だけの狭い人間関係の中で生活している。一般社会で大人たちとの関わり持たないで、児童養護施設から直に入ってきた子ども達は、児童養護施設での狭い人間関係を引きずっている。

これらの子ども達にとって必要なことは、社会の中で本当に困ったときに手をさしのべてくれる大人が居ることである。それが出来るのが「星の家」である。



スタッフの吉井氏、曾根氏

星ホーム長から今までの総括として、その子のためにどれだけのエネルギーを費やしたかが問われる。その子のために悩んで、悩んで・・・その気持ちが子どもたちに伝わった時に信頼関係が築かれるのだと思う。子どもたちの一生を思う時、その子が死ぬ時に何を思うのか、「生きていて良かった」と思って

もらいたいと願うばかり。この思いで子どもたちの人生に関わるスタンスが大切だと思う。

そして星ホーム長から各スタッフへの問い。

【自分が一番大切にしていることは？】

星美帆スタッフ

「星の家」は子どもと大人の暮らしの場です。毎日の生活の中で子ども達のことばや行動で嬉しくなったり、共感できたり、嫌な気持ちになります。

そういう時に、私の気持ちをことばで伝えるようにしています。

こまかく、うるさいことを言うのは「思っているからだよ」と子ども達に伝えながら過ごしていきたいと思っています。



星ホーム長とスタッフの星美帆

吉井スタッフ

「星の家」の入居者たちが社会に出て、変な子だと思われて欲しくないと思っている。ある時入居者の女子が、お尻がチラリと見えてしまう極短ショパンでしかもギャル系姿で階段から玄関まで猛ダッシュで外出、帰宅も同じで猛ダッシュで部屋へ駆け込んだ。何故と問いかけると、「こんな格好を見られるのが恥ずかしいから」と言う。その格好で外を歩くほうがもっと恥ずかしいと思うのだが。(笑)

私は失礼なことをされるとカチンと来るが、それが頂点に達すると、自分の気持ちをうまく相手に伝えることができなくなる。今は、自分に言い聞かせながら皆と関わっている。

曾根非常勤スタッフ

「星の家」では私は、甘い存在である。自分自身の役割としてはそれで良いと思っている。集団生活をしてきた子ども達は力関係や大人との関係を見抜くことに長けている。甘い人間と見るとことん要求をエスカレートしてくる。日常生活をしていく上で大人としてこれ以上は譲れないという線を持ち続けていけば、甘い存在の大人が一人ぐらいいても良いのではないかと思う。

【会場からの質問】

女性Aの方から

Q 最初に美帆さんは凄いな～と、ひとりの母親として見ていたが素敵な方だと思いますと感想を述べられ後、美帆さんに星の家に関わってきてどんな喜びがあったのか？の質問があった。

A（星美帆スタッフ）

この仕事は慣れることがない。子ども達は個性を持っており、いつもいつも心配しながら、迷いながら、そして不安になりながら子育てをしてきた。子ども達がほんの一瞬でも自分自身を見せてくれたり、私の長所も短所も含め受け入れて貰った瞬間に嬉しく思います。

女性Bの方から

Q サロン「だいじ家」の活動状況について聞かせてほしい。

A（曾根スタッフ） 今はまだ始まって間もなく手探り状態で活動しており、利用者もまだ少ない状況にある。運営には施設出身の当事者が5、6名関わっている。

さて、私は、施設出身者が結婚することになったものの施設出身であることが言えなくて悩んでいることを知り、サロンの必要性を痛感した。施設出身者は社会に出てから、狭い行動範囲の中で生活しているため情報を得ることが少なく、サロン「だいじ家」があることさえ分からない状況にある。早く知ってもらうことが課題である。このため当事者に集まってもらえるように6月にバーベキュー開催を計画している。当事者伝いで大勢集まってもらえればと願っている。

A（福田理事長） 誤解を招くと困るので話しますが、サロンは“引きこもり対策”のところではない。

“家庭のない子どもたちが対象”で、居場所がなく同じコンプレックスを抱えた子どもたちが、お互いに共感し、助け合う場である。

【総括】

福田理事長 美帆さんは素晴らしい。言葉に重みを感じる。私は児童養護施設の施設長をやりながら「星の家」に関わっていることに自己矛盾を感じているし、施設において集団で子どもを育てることに疑問を感じている。この疑問の解決に自ら飛び込んでみたいのだが、家庭を顧みると・・・。

自立援助ホームは、子どもの最終段階の居場所で、大人になるためのところである。しかし今スタッフの高齢化が心配である。星ホーム長は50歳台半ばを過ぎそう長くは務められないだろう。10年後を見据えたとき後継者はいるのだろうか？と思うと益々悩みが増える。皆様に理解していただきたいと話された。

星ホーム長 この仕事を好きで始めたわけではない。NOと言えなくて今日まで来てしまったが、人間との出会いを重ねていくうちに、つくづく幸せを感じることもある。

昔は自立援助ホームの礎を築いた凄い人たちがいた英雄時代であった。今はマニュアルを求める時代になってしまった。子どもとの関わりにマニュアルはない。子どもたちのためになるには、後継者をどう育てていくのが大切なのではと思う。

最後に、福田理事長から各地区で研修会を計画しますので、お誘いあわせて参加してほしいと結ばれた。

以上

春夏秋冬 星の家 NO.15

7月1日で入居者が定員満杯の8名になりました。定員を増やしてからも実際の人数はしばらく6～7名できていたのですが、いよいよ8名揃いました。6月に3名の入居があり、今はその子達と一緒に仕事探しをする毎日です。

それでは現在の入居者たちを紹介します。

男の子はしばらく1名の状態が続いていましたが、現在3名になりました。

J(17歳):昨年アパートに出たのですが、4月に戻ってきて再入居になりました。新しい職場で頑張っていますが、天候に左右される仕事ゆえ急に休みになることもあります。2回目の入居だから早くお

金を貯めなくてはという思いがあるようで、休みになる度に焦りをつのらせています。

G(18歳)：Gが最初に星の家に来た時は中学校卒業と同時でした。それから4年経っての再入居です。15歳だったGももうすぐ19歳になります。アパートに出てからハチャメチャになってしまった生活を振り返って、今はもう一度調理関係の仕事を頑張りたいと考えています。



S(16歳)：6月の末に入居しました。さっそく就職が決まり、これから仕事を始めるという緊張感があります。あまり気負わず、できることを精一杯やってもらいたいです。

女の子は多少の入れ替わりがあり、定員いっぱい5名の入居者がいます。

N(18歳)：4月から働いている老人関係の施設

の仕事は今も続けています。遠い通勤路ですが、毎日バスで元気に通っています。

A(16歳)：飲食店でアルバイトをしていましたが、同時に遊びの方にエネルギーが向いてしまい、星の家にも帰りづらい状況になってしまいました。

S(20歳)：星の家で20歳の誕生日を迎えた彼女も、4年前に来た時はまだ16歳でした。7月からそれまで掛け持ちしていた仕事を一つにし、より働きやすくして貯金を目指します。

T(17歳)：こちらも昨年入居していたのですが、今年に入って再入居しました。昨年との違いは仕事を続けられていることです。そして彼女自身が周りの人に受け入れられるよう努力する気持ちを持てたことです。

M(16歳)：6月の末に入居しました。半月くらい星の家でゴロゴロゆっくりしてエネルギーが充電された今、そろそろ本人も仕事を始めたくなったようです。(YY)

## 事務局報告

### 平成22年度定期総会報告

先の5月22日土曜日の午後1時15分から青少年センター2階第1研修室にて開催しました。定足数61名を大幅に上回る総会出席正会員数123名(出席者30名、委任状93名)を迎えて予定時刻

13時15分に吉井祐美子さんの司会で開会、福田雅章理事長の挨拶の後、議長に生野裕子氏を選出しました。



議長の生野氏

議長の生野裕子氏の進行のもと、第一号議案平成21年度の事業報告及び収支決算と監査報告、次に第二号議案平成22年度の事業計画ならびに予算案がそれぞれ審議され、議決を挙手により諮ったところ、両議案とも満場一致をもって原案どおり可決確定しました。

なお、議長から本会の今後の展望について執行部に問かけがあり、これに対して理事長の福田雅章が次のように応えました。

・本会活動の柱の一つであるサロン「だいじ家」の常時開設には専従スタッフの配置が必要であり、このために退所児童等アフターケア事業の国の認可を得ることが急務となっているので、行政に対して働きかけていきたい。

・さらには自立援助ホーム「星の家」ホーム長の星俊彦(理事)が、全国自立援助ホーム連絡協議会の来年度の会長職(現在会長代行)に推挙され断われない状況にあることを伝え、会長になれば国との折衝や支援者関係団体などとの協議、講演等に忙殺され星の家の運営に支障が出かねないことが予想される。このためにスタッフの補充が必要となるので、皆様のご理解、ご協力を願いたいと求められました。

以上をもって本総会における全議案の審議を終了したので、議長は午後14時15分閉会を宣し、議長は直ちに解任され総会は閉会しました。

# 寄

## 付・会費納入者

敬称略・順位不同

平成22年6月金融機関引落し者

(個人情報保護の観点から、ウェブ版では個人名は割愛させていただきます)

### 【編集後記】

早くも7月、1年の後半へ。還暦を過ぎると加速して月日のたつのが早く感じるが、人様から若いですぬ〜とおだてられその気に(^-^)/。だが近頃は体力・気力の衰えをはっきりと感じて(;\_;)、加えて物忘れ・ミスが多くなってきて(/o/) ああ〜・・・

さて、夏本番に入り星の家まつりが近づいてきました。バザー用品もぼちぼち集まり始め、スタッフは仕分けに取りかかっています。今年もご支援よろしくお祈りいたします。m(\_ \_)m

星の家建物購入借入金返済キャンペーン寄付金  
おかげさまで昨年度のキャンペーン寄付金は、10年返済の借入金の繰上げ返済(元金22ヶ月分)に充てました。ありがとうございました。  
(返済期日 2019年1月 2017年3月)  
引き続き、借入残高18.4百万円の早期返済のためキャンペーンを行っておりますので、ご支援のほどお願いいたします。

なお、沢山の方からお米や野菜あるいは日用品などの物品をいただいております。ご芳名は省略させていただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら当会までお問い合わせください。

### お知らせコーナー

#### 星の家まつり開催のお知らせ！

開催日 平成22年10月17日(日)

開催時間 10時30分～15時

場所 宇都宮市明保野体育館



**\*バザー物品を募集中！！**

(詳細は、チラシをご覧ください)  
まつりボランティアも募集中です！

### 【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

\*通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

\*\*\*振込などの手間が要らない「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております！\*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

発行日/ 2010年7月10日

発行責任者/ 福田雅章

編集責任者/ 曽根俊彦

所在地/ 320-0037 栃木県宇都宮市清住1-3-48

電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024

Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp

HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>